

卷末言

佐藤 利行

広島大学理事・副学長（国際・平和・基金担当）

広島大学の佐藤です。登壇者の先生方、今日はありがとうございました。実は閉会の言葉を準備していたのですが、これはもうやめます。

私は千田町、この電車通りのすぐ向こうで生まれました。そして千田小学校、国泰寺中学校とずっと広島で育ってきました。それで、今日のシンポジウムの間、ずっと思い出されたのは、小学校1年生の時の担任、まだ30代の若い教師が、まさに被爆者、被爆教師だったということです。

今日私が一番感じたのは、私はいわゆる被爆者第一世代ではありませんが、被爆された人たちから直接話を聞いた世代です。私ももう還暦を迎えて、あとどれぐらい生きるか分からないけれども、私たちの世代が何をしなくてはいけないのかということを実を本心にずっと考えました。

そして、川野先生の話にもありますが、次の世代の人がどうすべきかということを考えて。私は、広島に生まれた一市民として自分が何をなすべきかということも考えましたし、広島大学の一員として何をすべきかも考えました。

おそらく今日ここに集まった皆さんが、それぞれに原爆の問題・平和の問題をどう伝えていくかということを考えられたと思

います。そういうことをみんなで語り合える場面をどんどんつくっていくことが、川野先生のセンターの使命ではないかと思えます。

先ほどありましたように、川野先生にはずっと言っています。こういった講座をどんどん開いてもらって、皆さんと一緒に平和の問題を語り合う場をつくるのが大事だと。そういう意味で、今日は本当にいい時間、いいシンポジウムだったと思います。ありがとうございました。

皆さんのお手元の資料にありますが、今日のシンポジウムにもお名前が出てきました国連事務次長の中満泉さんの講演会が、8月6日にまさにこの場所にあります。ぜひ多くの人に来ていただきたいと思っています。

それから、被爆者の方々がいらっしゃる広島原爆養護ホーム 舟入むつみ園で、広島大学の嘉陽（礼文）研究員と学生とむつみ園の皆さんが、一緒にハトのモニュメントをつくっています。これは原爆焼ということで一部紹介されましたが、越智学長の発案で、これも8月6日に平和のモニュメントということでお披露目します。

それから次に大事なことは、留学生と広島大学の学生が平和についてディスカッショ

ンをしようと、学生たちが自主的に企画しました。それも引き続いてこの場所でありますので、ぜひ多くの方に足を運んでいただきたいと思います。

ありがとうございました。